

# コロナ禍が 及ぼした影響

重症度、医療・看護必要度に焦点を当てて

第45期 全日本民医連理事

京都民医連中央病院 看護部長

坂田 薫

## 京都民医連中央病院

許可病床411床

2023年1月現在 358床

◆地域包括ケア52床

◆回復期リハビリ病棟 51床

◆緩和ケア 21床

◆DPC

• HCU 12床

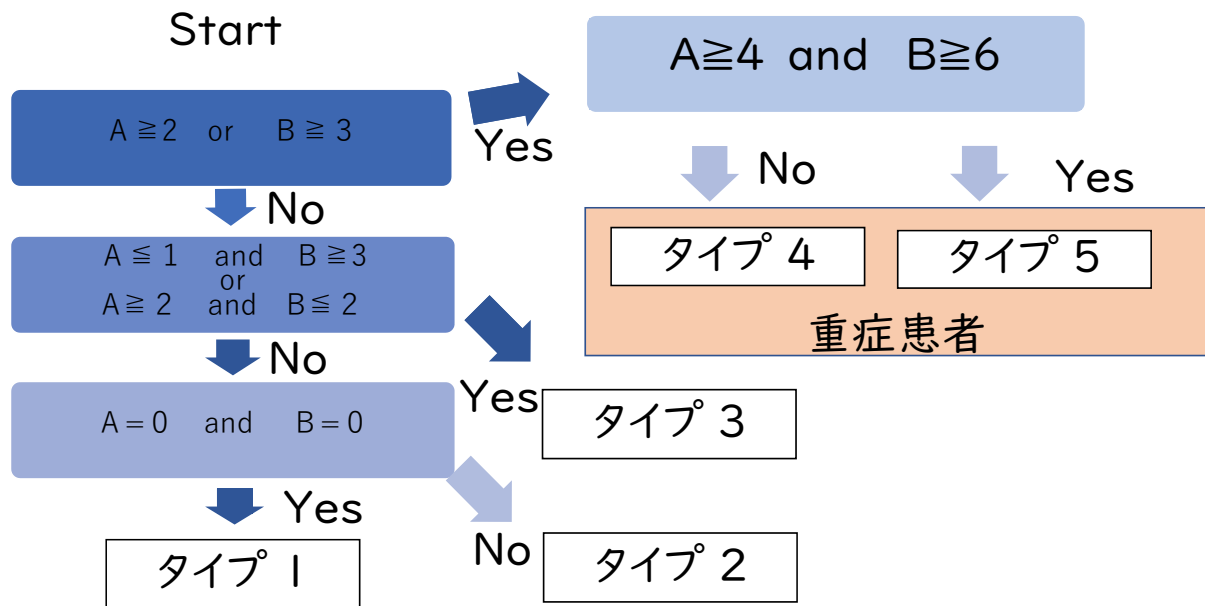
• 急性期一般 7対1 5病棟 195床/COVID-19病棟 2病棟 27床

2021年1月 ⇒急性期一般 6病棟235床 +COVID-19病棟 1病棟 16床

2021年9月 ⇒急性期一般 5病棟195床 +COVID-19病棟 2病棟 27床

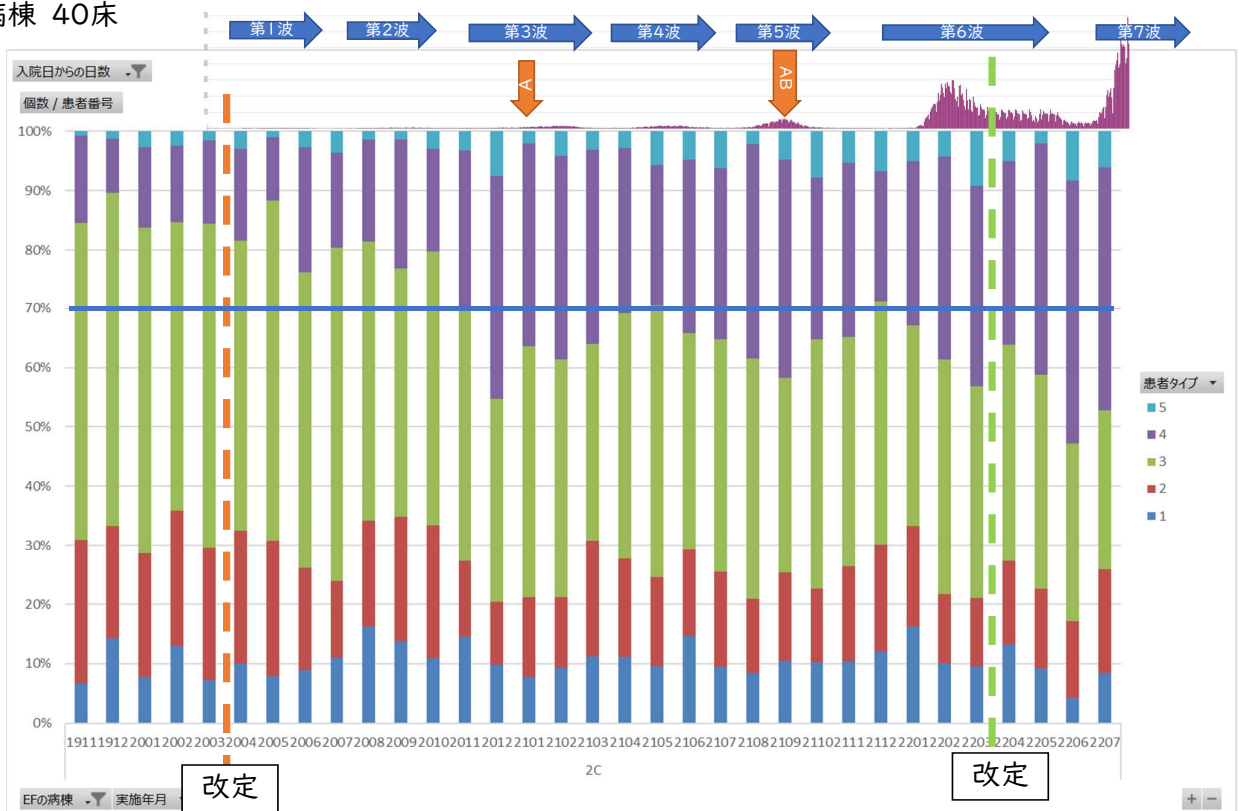


# 「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いた患者分類のアルゴリズム

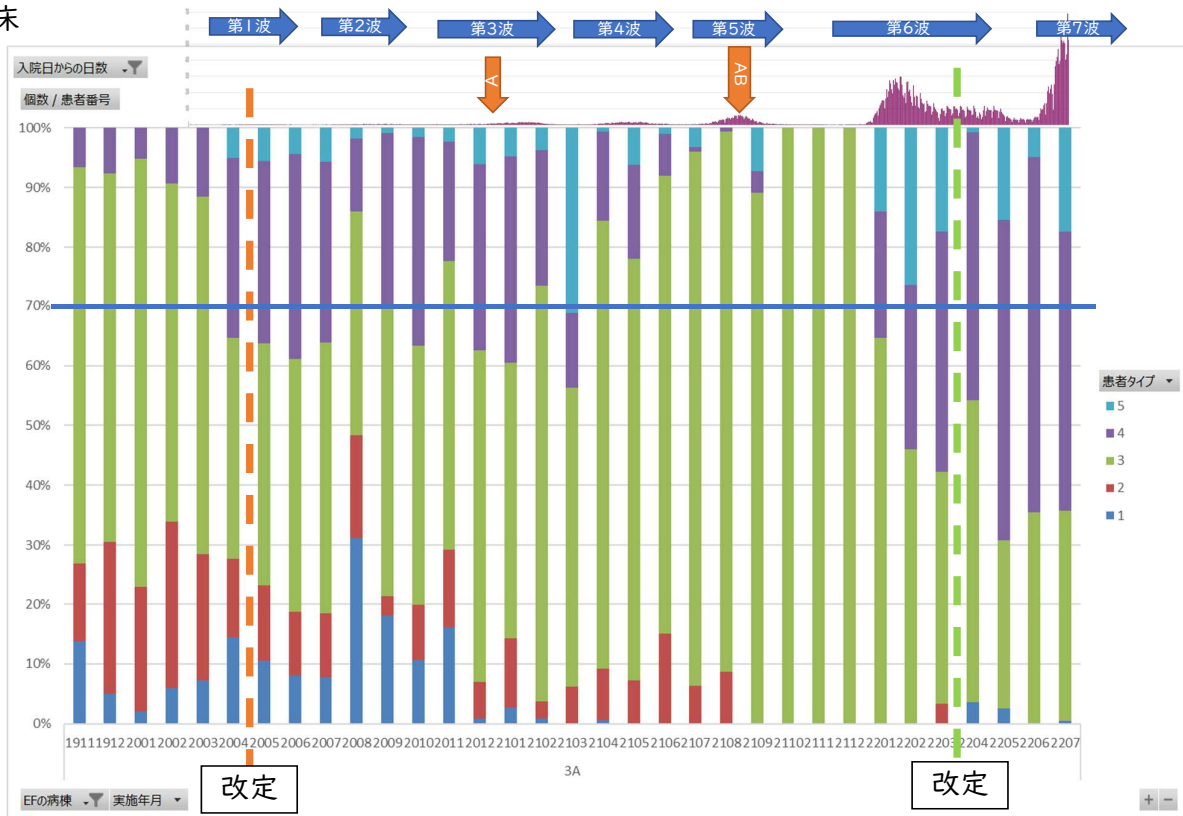


筒井孝子 編：マネジメントツールとしての看護必要度 第2版 中山書店,東京,2008.11 より

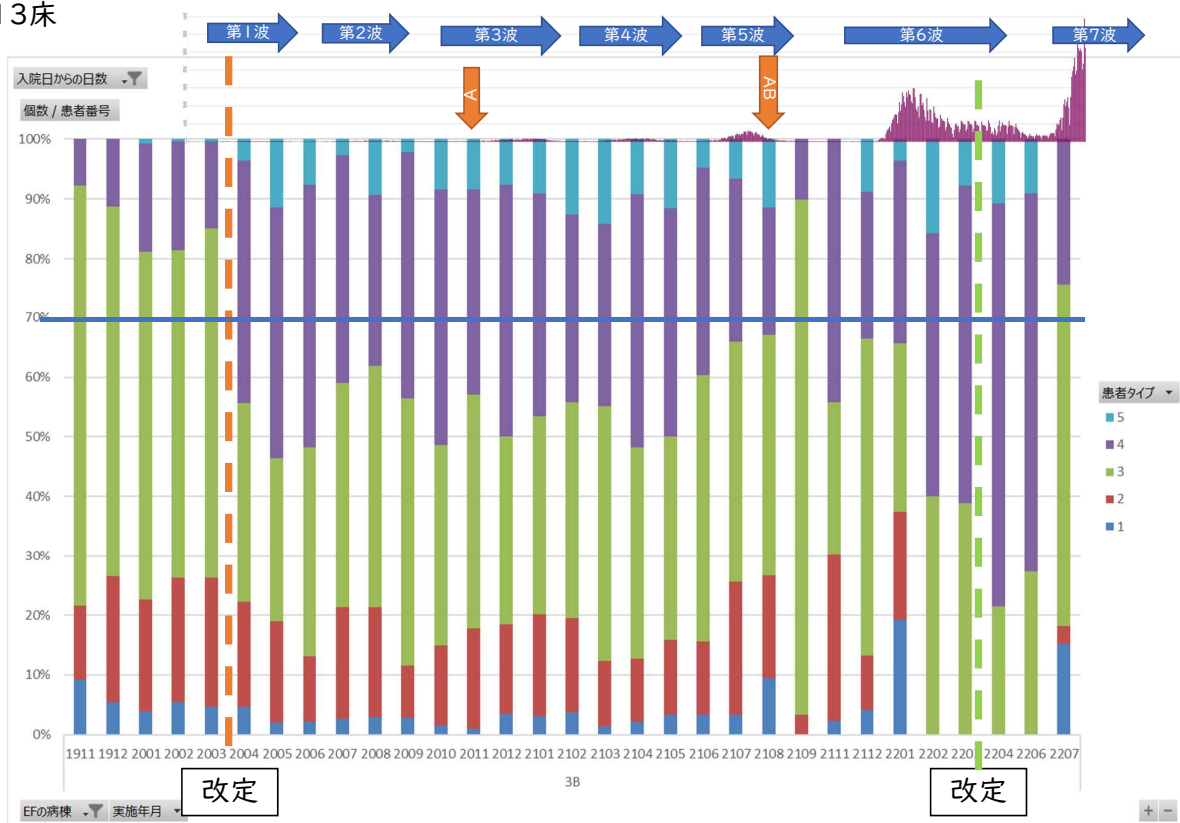
## 整形外科病棟 40床



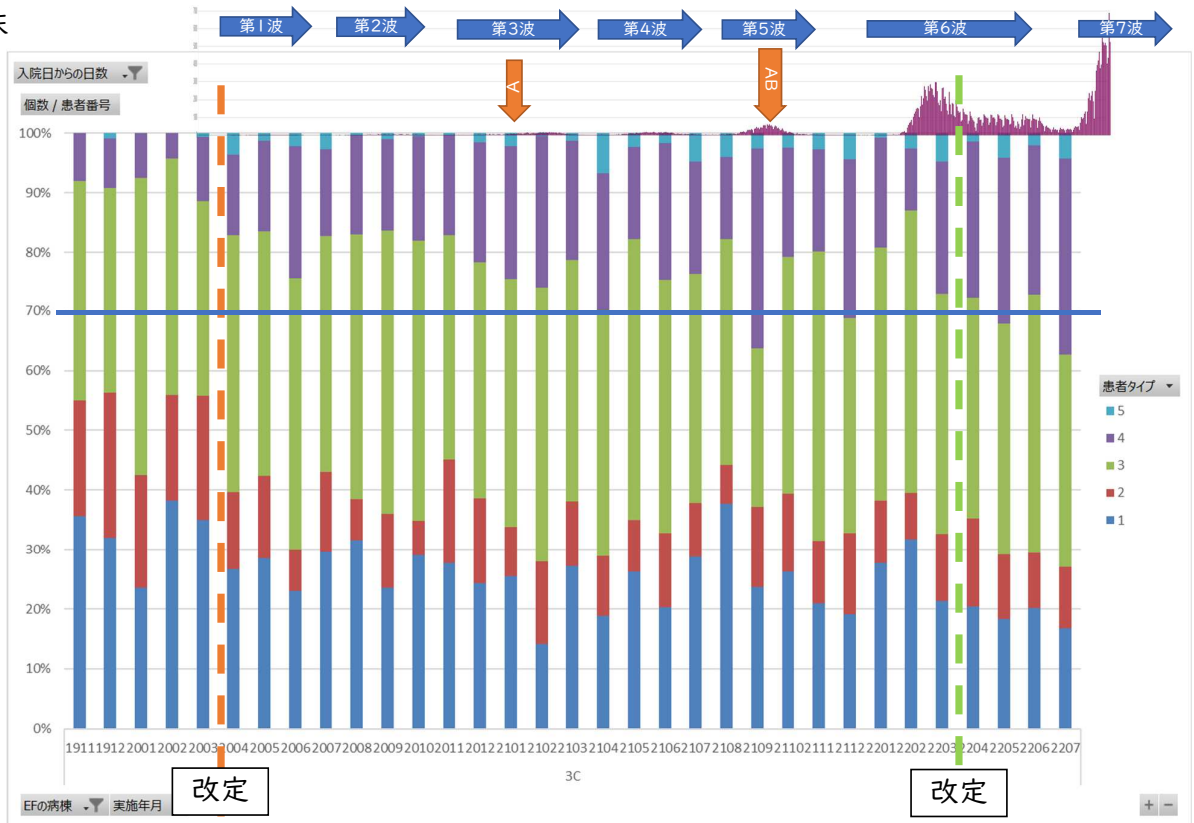
# COVID-19A 14床



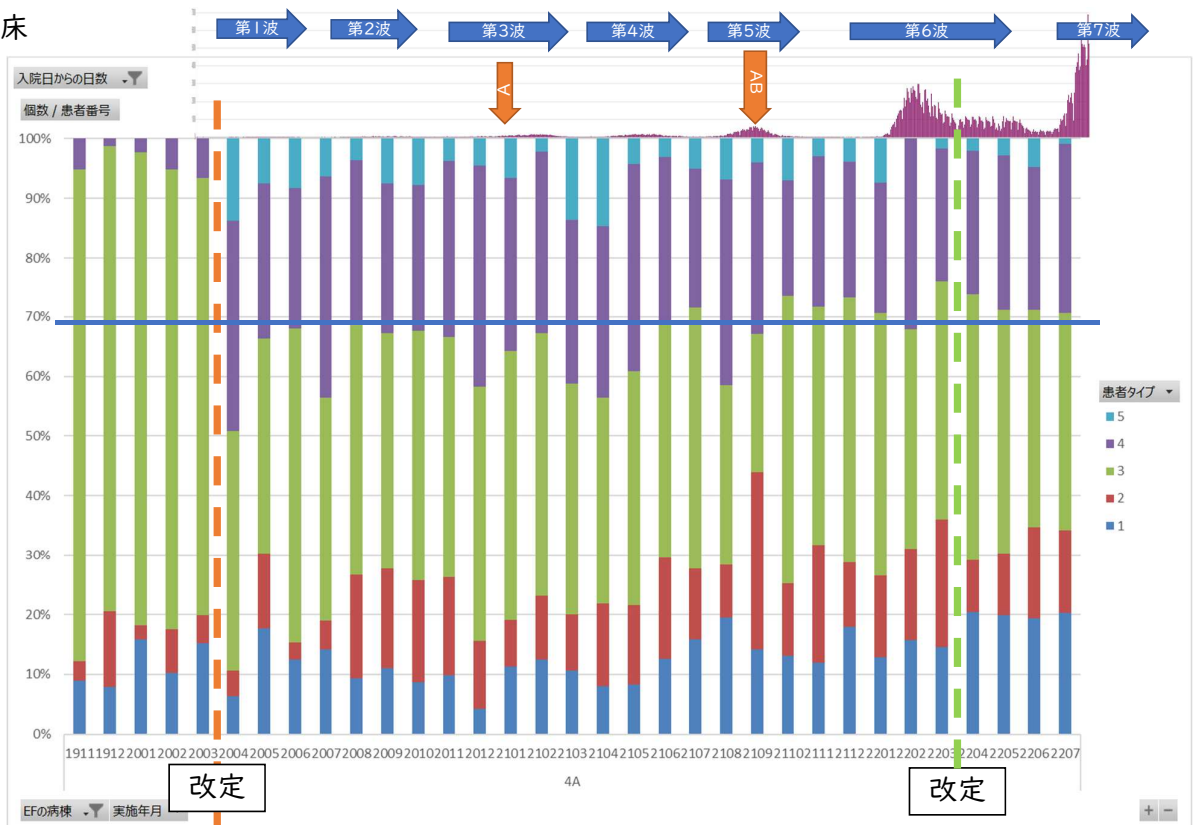
# COVID-19B 13床



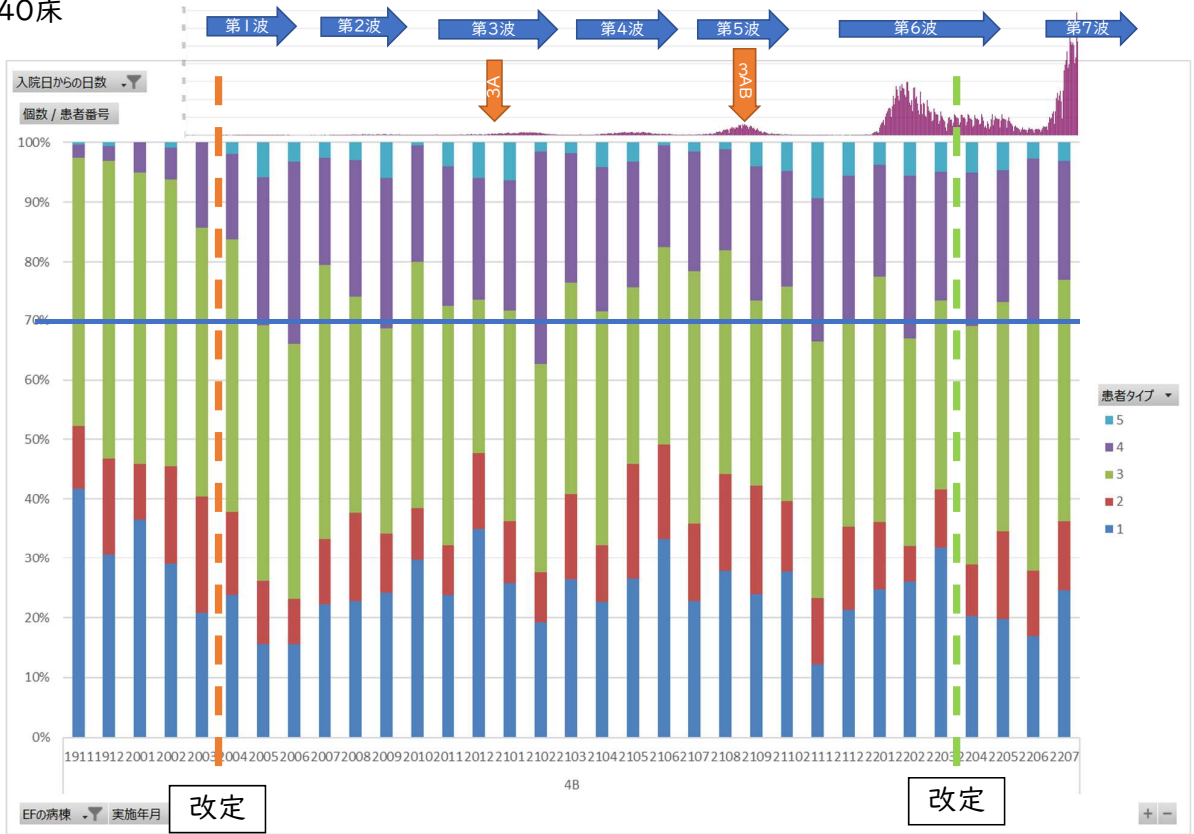
女性病棟 35床



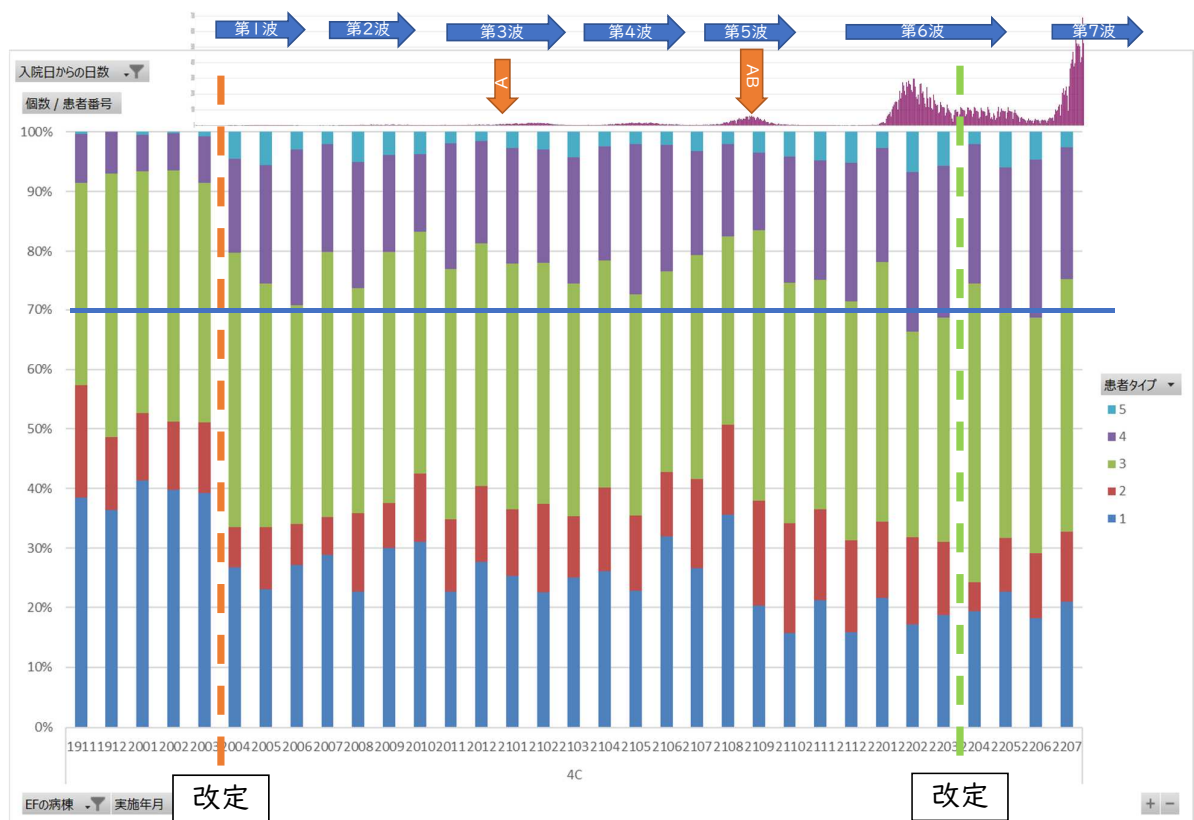
腎・循環器 40床



# 消化器内科 40床



# 外科 40床



「一般病棟用の重症度・看護必要度に係る評価票」を用いた  
患者分類のアルゴリズムによる  
タイプ別の看護職員配置

タイプ1 $A=0 \ B=0$	10対1
タイプ2 どのタイプにも当てはまらない	7対1
タイプ3 $A \leq 1 \wedge B \geq 3$ または $A \geq 2 \wedge B \leq 2$	
タイプ4 $A \geq 2 \wedge B \geq 3$	4対1
タイプ5 $A \geq 4 \wedge B \geq 6$	2対1

看護必要度のタイプ別から考える看護師配置

整形病棟 40床	7月の 患者割合(%)	患者数	看護職員 配置数
タイプ5	6.08	2	3
タイプ4	41.06	16	12
タイプ3	27	11	4.7
タイプ2	17.49	7	3
タイプ1	8.37	3	0.9
合計	100	40	23.6 (24)
7対1の場合 (再掲)		40	17.1

## 看護必要度のタイプ別から検討した 7月の看護師の傾斜配置

	月平均1日当たり 必要となる 看護職員配置数	タイプ別から検討した 月平均1日あたりの 看護職員配置数
女性病棟 35床	15.0	18.6
整形病棟 40床	17.1	24.3
腎・循環器病棟 40床	17.1	20.0
消化器内科病棟 40床	17.1	18.6
外科病棟 40床	17.1	20.0
合計 195床	83.6(84)	101.4(102)

### 看護必要度の重症度タイプ別分類からの検討

- 2020年以降、急性期一般病棟の重症度は上がっている
- 整形病棟の変化が顕著  
⇒ 急激な条件変化による医療事故のリスクが高まる可能性
- 急性期一般入院料7対1の配置より、6.5人の看護職員配置が必要

COVID-19パンデミックの影響を  
可視化する



# 提案

- 重症度、医療・看護必要度=EFファイル・Hファイルの提出

対象：急性期一般入院基本料・地域包括ケア病棟



- 重症度タイプ別から見た重症度割合と看護管理実態調査から考察し、看護の実態明らかにし、運動へとつなげていきます

提出データの時期や、提出期間・方法については今後お知らせします